

こどもマル

堂畑

DOBATAKE

堂畑地区 × 福島大学



はじめに～堂畑地区の皆様へ～

みなさんこんにちは。私たちは福島大学行政政策学類岩崎ゼミに所属している学生一同です。

岩崎ゼミでは主に、農山村地域の活性化に向けての取り組みについてフィールドワークや文献輪読を通じ研究しています。そのフィールドとして2016年度から堂畑地区を訪問させていただき、皆様にあたたかく迎え入れていただきました。

2017年度の活動の中では、「堂畑活性化サロン」の参加や堂畑マルシェの開催、さらにはお宅に訪問しての聞き取り調査など、普段学校ではできないような学びの場を提供していただきました。

その感謝の気持ちを込め、2017年度の活動の成果をパンフレットとしてまとめました。皆さんに楽しんでいただければ幸いです。

最後になりますが、ゼミのフィールドワーク活動にあたって多大なるご支援・ご協力をいただいた堂畑地区の皆様、湯川村役場の皆様、心より感謝申し上げます。

岩崎ゼミ 学生一同

目次

はじめに～堂畑地区の皆様へ～	2
2017年度活動内容	3
2016年度福大生からの3つの提案	4
第1回堂畑活性化サロン	5
ニコニコ学級	7
第2回堂畑活性化サロン	9
第3回堂畑活性化サロン	11
第4回堂畑活性化サロン	13
地域おこし協力隊染谷さんのお話	14
湯川村村民運動会	16
新米祭	17
堂畑マルシェin 福大祭	18
堂畑の野菜を購入した方からの感想	19
SNSによる情報発信	20
2017年度の活動を振り返って	21
今後の提案	22
岩崎ゼミの紹介	23
堂畑地区地域資源マップ	24

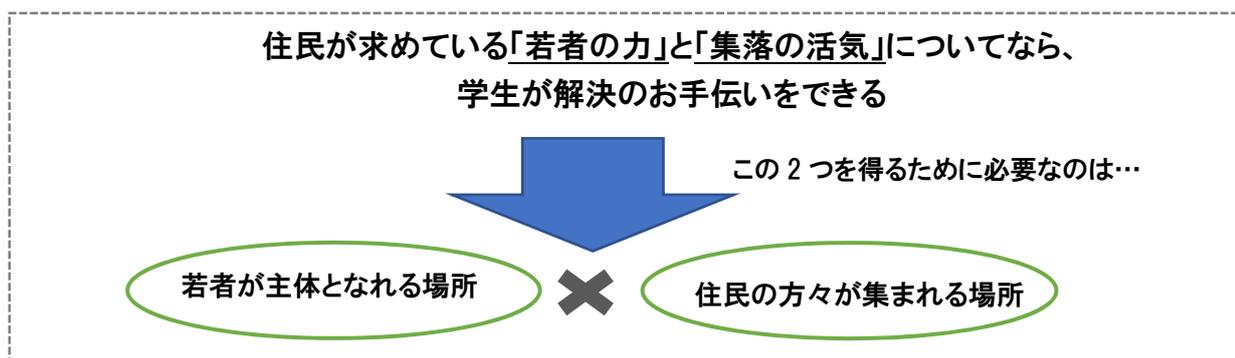
(3年 江坂彩生)

《2017 年度活動内容》

2017年2月11日(土)	県主催「地域づくりオープンカフェ」報告会
2月22日(水)	現地発表会
6月6日(火)	第1回堂畑活性化サロン: 役場でのお話、堂畑地区でのワークショップ
6月23日(金)	にこにこ学級総会、もちつき
7月28日(金) 29日(土)	第2回堂畑活性化サロン: こどもわくわく勉強会、道の駅こどもマルシェ
8月20日(日) 21日(月)	第3回堂畑活性化サロン: 夏祭り、堂畑での白菜植え付け
9月2日(土) 3日(日)	第4回堂畑活性化サロン: 道の駅・屋台村見学、協力隊染谷さんのお話、マルシェ 出品農家インタビュー、湯川村村民運動会参加
10月7日(土) 8日(日)	湯川村新米祭運営の手伝い、堂畑マルシェ
10月28日(土) 29日(日)	福島大学祭:堂畑マルシェ
2018年1月25日(木)	地域創生総合支援事業(サポート事業)の成果報告会
2月10日(土)	「大学生等による地域創生推進事業」活動報告会
2月23日(金)	福島大学・会津大学 学生活動報告会

○2017 年度の活動背景

2016 年度湯川村堂畑地区フィールドワーク調査や、堂畑地区での活動を通して考えたこと



そこで、**福大生からの3つの提案**!!!

- 提案① 「堂畑マルシェ」をぜひ福島大学祭で！新米祭でも堂畑マルシェ開催継続
- 提案② 堂畑活性化サロンの実施
- 提案③ 活動の様子や風景を SNS で発信

2016 年度福大生からの 3 つの提案

提案①について

「堂畑マルシェ」をぜひ福島大学祭で！新米祭で「堂畑マルシェ」開催継続

堂畑のお宝の一つは…野菜！

新米祭で「堂畑マルシェ」を開催し、福大生が堂畑で採れた野菜を販売⇒大好評！

★「堂畑マルシェ」の継続で見込める効果

「私の野菜が売れた！」「消費者に喜んでもらって嬉しい！」「身近なものが宝だった」

- ・地域の魅力を再発見
- ・地域を盛り上げようというモチベーションアップ
- ・堂畑の農産物の PR につながる
- ・地域おこし協力隊の方にも参加してもらう

提案②について

堂畑活性化サロンの実施：

月に 1 回ほど学生が堂畑地区を訪れ、地区の方と交流する

具体的には…花見・お茶会、料理教室、芋煮会、学童、農作業体験・お手伝い、お祭りやイベントのお手伝いなど

★堂畑活性化サロンで見込める効果

地区の若い人と学生が交流



- ・学生と地域の人との絆
- ・地域の人同士の交流
- ・現代版の新「兄弟分」に！



提案③について

活動の様子や風景を SNS で発信

湯川村での活動や風景などの魅力を、若者のツールの中心である SNS で発信する

★SNS で発信することで見込める効果

- ・地域外の人に堂畑地区の魅力を PR
- ・次世代への情報を発信



以上の 3 つの提案を基に 2017 年度は活動しました！！！！

(3年 近藤結美)

第1回 堂畑活性化サロン（2017年6月6日）

岩崎ゼミの3年生は、この第1回堂畑活性化サロンの開催に参加することによって、初めて湯川村堂畑地区を訪れることとなりました。これから私達の手で堂畑を盛り上げようと気持ちが入っていました！

< 役場でのお話 >

まず最初に湯川村がどんな場所かを学ぶために湯川村役場に向かい、三澤豊隆村長にお会いして湯川村に関する講話をして頂きました。三澤村長はとても気さくでパワフルな方で、私達学生にも一人一人に自分の名刺を渡してくださいました。

村長は国の重要文化財の仏像が祀られている勝常寺のお話や、自慢のお米湯川米について等お話してくださいました。「学生のみなさんには期待しています。」とってくださいましたことがとても印象的でした。



▲湯川村

▼三澤豊隆村長



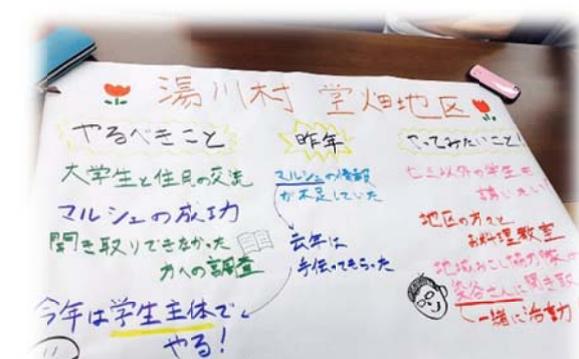
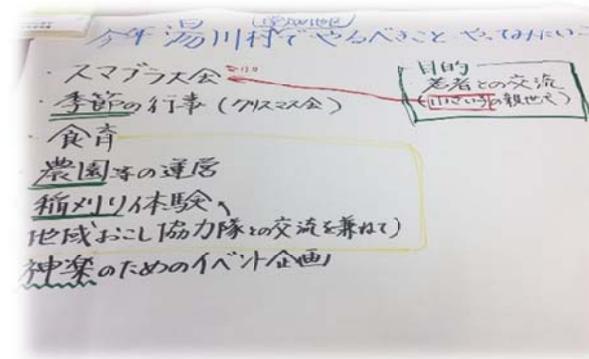
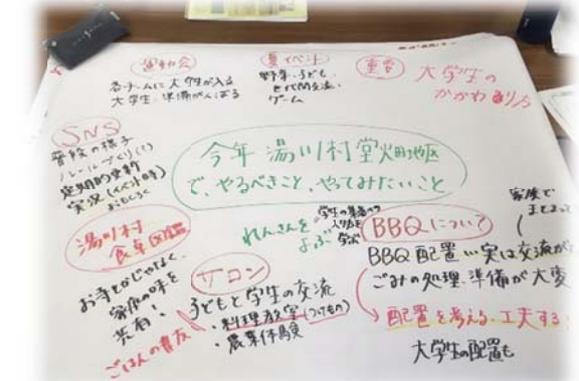
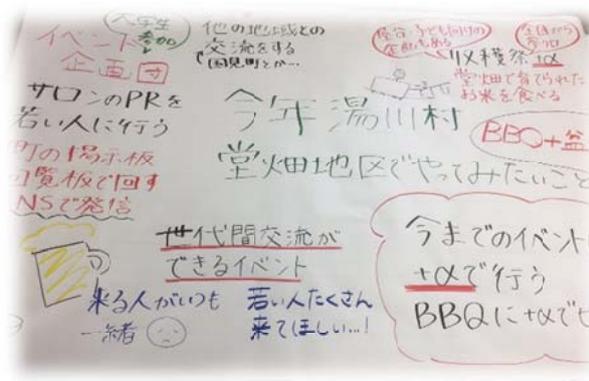
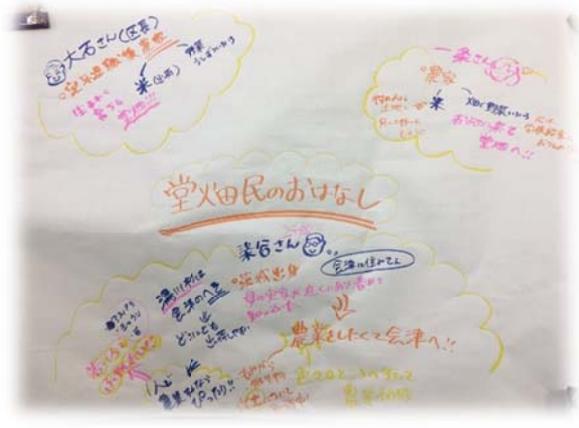
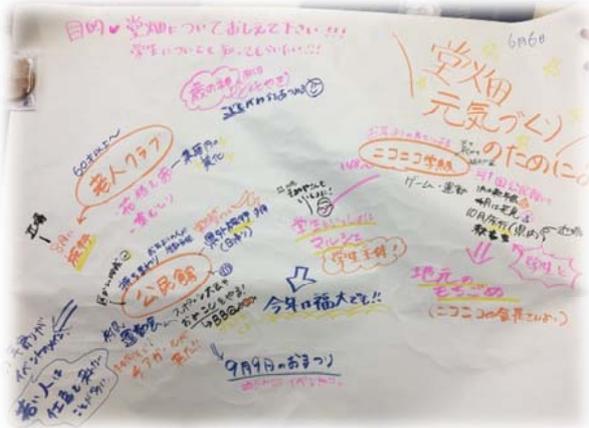
< 堂畑でのワークショップ >

役場でのお話が終わった後は堂畑集会所を訪問しました。そこには堂畑地区の住民の方が10数名待っててくださいました。その後サロン1回目ということで、自己紹介を兼ねたワークショップ、ファシリテーショングラフィックを行いました。地域の方々と大学生が混ざったグループを五つほど作り、「堂畑元気づくりのために！」をテーマに意見を出し合いました。

話し合いを進めていくにつれ、少しですが堂畑地区の方々が抱えている問題、私たちに求めていることが見えてきました。住民の皆さんは、「住民旅行等様々な企画があるが、毎回参加する人が同じだから色々な世代が楽しめる企画が欲しい」や、「色々な世代が混じって楽しめるイベントが欲しい！」といったような意見を積極的に出してくださいました。自分達も何とか良いアイデアを出して堂畑を盛り上げたいと改めて思われました！

最後は各班の意見をまとめて発表し、学生と地域の方々と意見を共有して閉会となりました。これから堂畑と一緒に盛り上げていこうという気持ちになりました！

▼ファシリテーショングラフィックまとめ



< まとめ >

第1回堂畑サロンでは初めて地域にお伺いしたこともあって不安や緊張を感じましたが、1回目から住民の方々と活発にワークショップを行えたことは非常に嬉しく、充実した時間を過ごせました。これから湯川村堂畑地区で活動するにあたってよいスタートを切れたのではないかと思います！

(3年 阿部友祐)

【 ニコニコ学級 】 (2017年6月23日)

< もちつき >

昨年堂畑地区でとれたもち米を使ってもちつきをしました。
あんこ、ごま、きなこ、納豆、豆腐もち、お雑煮など様々な
味付けのおもちが出来上がりました。

ついたおもちを手の親指と人差し指を使って絞り出すように
分けるのですが、つきたてのおもちはとても熱く、学生や地域お
こし協力隊の染谷さんは苦戦していました。しかしベテランのお
母さんたちは慣れた手つきでおもちを分けていました。

そのほかにも、地域の皆さんがその日の朝に採ったばかりの
野菜を持参してくださり、お漬物も作っていただきました。



▲ついたもちを分けている様子

< 健康体操 >



▲手首の体操をしている様子

おもちができたところでさっそく食べましょう、…とその前
に、村の保健師の方にお越しいただき、身体の体操と頭の
体操を行いました。

湯川村民応援歌にあわせて肩や首、手首や足の筋肉
ゆっくりほぐし、5色のテープが巻いてある筒状の新聞紙を
使って、指定された色の部分を片手でキャッチするという
ゲームで頭も柔らかくしました。

※「湯川村民応援歌」とは…

湯川村の文化親善大使であり、映画「男はつらいよ」シリーズで、主人公「車 寅次郎」の
妹・さくら役を演じ人気を博した倍賞 千恵子(ばいしょう ちえこ)さんが唄う、作詞は、会津
若松市出身の石原 信一(いしはら しんいち)さん、作曲は、倍賞さんの夫である小六 禮
次郎(こらく れいじろう)さんによる湯川村の応援歌です。

< 会食 >

体操も終わり、いざ会食です。

色とりどりのおもちとお漬物が机の上に並び、みなさん思い思いに召し上がっていました。昨年のゼミ生には十数個のおもちを食べた方もいたそうですが、その記録には届きませんでした。とても美味しかったです。ごちそうさまでした。



▲みんなで食卓を囲んでいる様子

< ニコニコ学級を終えて… >

ニコニコ学級当日も堂畑地区のみなさんにあたたかく出迎えていただき、まるで祖父母の家に遊びに来たかのような印象を受けました。また、おもちを分ける作業に慣れてくると「上手上手！」と褒めていただいたり、体操のときも笑顔や笑いが絶えなかったりと、のんびりとして有意義な時間を過ごさせていただきました。

みんなで集まって食材を持ち寄って料理を作り、食卓を囲んでご飯を食べることで、大勢でご飯を食べる楽しさや誰かに料理を作ることの喜びを、われわれ学生たちも再認識するよい機会になりました。



▲納豆もち



▲健康体操



▲頭の体操



▲つきたてのおもち

(3年 平間和哉)

第2回 堂畑活性化サロン（2017年7月28～29日）

第2回は、2日にわたってサロンを実施しました。

1日目は、「こどもわくわく勉強会」！大学生が小学生の夏休みの宿題を手伝ったり、トイカメラを片手に堂畑地区の自然探索をし、撮影した写真を使用してアルバムを作成したりと、一緒に活動して仲良くなりました！



▲自然調査の様子。楽しそう！



▲パシャリ！いい写真撮れた！？

夜はみんなでカレーライスをつくり、おいしくいただきました。あいにく雨が降っていましたが、花火も少し楽しむことができました！

そして2日目は、「こどもマルシェ」！堂畑の子どもたちが農家さんのお家をまわって野菜を集め、袋詰めし、ラベルを貼って、野菜の宣伝ポップも作成！

「道の駅あいづ湯川・会津坂下」さんのスペースをお借りし、堂畑地区の野菜を販売しました！

また、堂畑地区を紹介するパンフレットを作成し、ご来館されたお客様に配布させていただきました。

予想以上の賑わいで、販売が追いつかなくなってしまいそうなほどでした。地区の小学生のみんなが積極的にマルシェのお手伝いをがんばってくれたから、たくさん販売できたのだと感じています。本当にありがとう！



▲野菜の袋詰め作業

◇「こどもマルシェ」を通して

堂畑地区の子どもたちや祖父母世代の農家さんだけでなく、若い親御さん世代とも協力し、マルシェを成功させることができたことで、多くの世代を地域でつなぐ活動ができました。

子どもたちと学生が、野菜生産・販売に積極的に関わるきっかけとなり、堂畑地区の農産物のPRにつながりました。



▲マルシェ、大成功～！

私たち大学生も「販売する」ということを経験し、どのようにすればより多く販売できるか、地域のことを知っていただけるかなど、現場で臨機応変に考えて行動することで、貴重な、生きた体験ができました。

活動の際、参加して頂いたお子様と保護者の皆様に、「堂畑地区と福大生の連携活動についてのアンケート調査」にご協力いただきました。皆様の回答は、今後の活動の参考とさせていただきます。

[アンケートでいただいたご意見など](一例)

<大人編>

- ・今回のような子供中心の企画であればうれしく思います。
- ・子供はじめ、区民が皆喜ぶ、プラス(勉強)になることを企画してもらいたい。
- ・winwinになる様な企画を！(堂畑区)の知名度が高くできるように。
- ・若さあふれるパワーとアイデアで、ぜひ堂畑地区の活性化に努めていただきたい。

<子供編 ①一番楽しかった活動 ②これから大学生と一緒にやってみたいことは？>

- ① 自然調査(10人中10人！)
- ② お泊り(3人) 野球、ソフトボール、ドッチボールなどのスポーツ、ダンス(5人)
- ひこうき(1人)←紙飛行機のことかな？(笑)

(3年 大竹一樹)



第3回 堂畑活性化サロン（2017年8月20～21日）

湯川村合併60周年を記念したお祭りで、7/1には記念式典が行われ、さらに夏祭りを含む大相撲千賀ノ浦部屋の力士たちとの交流、公開稽古などが行われました。

< 大相撲「千賀ノ浦部屋」夏合宿 in 湯川村(8月17～24日) >

8月20日、村内の「ユースピアゆがわ」にて、千賀ノ浦部屋の力士と触れ合う夏祭りが開催されました。村内外の祭りを訪れた人たちが記念撮影などをして交流しました。

老若男女たくさんの人たちが、さまざまな屋台や催しがされた夏祭りを楽しんでいました。

子供向けのエア遊具なども設置され、たくさん子どもたちが遊んでいてとても活気がありました。



▲設営されたステージでは様々な催しが行われました

福島大学岩崎ゼミの学生も活性化サロンとして参加しました。



▲私たちの活動が福島民報さんに取り上げられました

この日の午前中に、湯川村堂畑区の協力して下さった農家さんたちと野菜の収穫を行いました。

さらに、堂畑で採れたそれらの新鮮な野菜を使って野菜スティックを作り、私たちが作成したロゴシールを貼りつけて、夏祭りの屋台の1画にブースを設置し、販売しました。

物珍しさや客寄せの呼び込みの成果もあって多くの人に興味を持っていただき、たくさん買っていただくことができました。



▲実際に販売した野菜スティック

< 朝稽古の見学～農作業体験 >

8月21日には、千賀ノ浦部屋の力士の方々の朝稽古を湯川村のみなさんとともに見学し、一緒に写真も撮らせていただきました。

初めて見る相撲の稽古風景はとても迫力があり、見学に来ていた全員が、その様子に圧倒され見入っていました。



▲岩崎ゼミと千賀ノ浦部屋の力士の方々



▲四苦八苦しながらみんなで実際に苗を植えました

また、湯川村の地域おこし協力隊である染谷さんと一緒に、畑に白菜の苗を植えるという体験をさせていただきました。

鍬を使って畑のうねを作るところから一人ずつ体験しました。実際に持つと鍬は意外に重く、それを使ってうねを作る作業もコツが必要で大変でした。

これを一人ですべてこなしていると思うと、農家のみなさんのパワフルさに感動し、また農家という仕事の大変さを体感しました。

おいしい野菜が採れるこの堂畑を
さらにPRしていきましょう!(^^)



(3年 佐藤蓮)

第4回 堂畑活性化サロン（2017年9月2～3日）

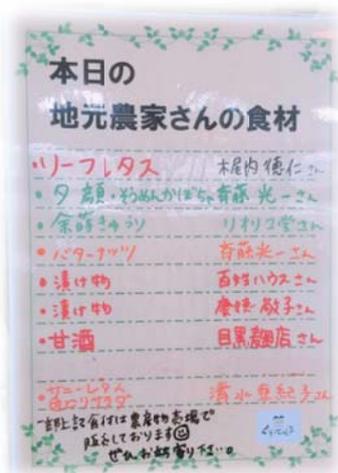
第4回堂畑サロンは、岩崎ゼミの合宿を兼ねて行われました。

< 道の駅見学 >

道の駅あいづ湯川・会津坂下内にある様々な施設や取り組みを見学しました。

▼農産物マーケット見学

農産物マーケット見学では、会津地域特産のアスパラガスをはじめとした会津ならではの新鮮な野菜、有機農法で育てた安全でおいしいオーガニック野菜、ふるさと納税でも大人気の湯川米や農産加工品や地元のお菓子がたくさん並んでいました。



お昼は農家レストラン「くうべえる」で食事をしました。くうべえるでは、湯川・会津坂下町近郊の農家の方たちが育てた米や、旬の野菜を使用した、ここでしか味わえないメニューを楽しむことができます。店内では、その日に使用した食材の名前と、生産した地元農家さんの名前が紹介されています。一部の食材は農産物マーケットで販売されているので、くうべえるで食事をして、気に入った食材があればすぐに買うことができるのが特徴です。

▲農家レストラン「くうべえる」で使用された 食材と生産者の紹介

< 地域おこし協力隊染谷さんのお話 >

道の駅のレストランでお昼ご飯を食べた後は、地域おこし協力隊である染谷さんのお宅に行きました。染谷さんのお宅は空き家を改修して新たに作られた、「湯川村農業体験民泊施設」です。そこでは約 30 分間、地域おこし協力隊になった経緯や湯川村を選んだ理由などを染谷さんから伺いました。

地域おこし協力隊になったきっかけ

染谷さん自身は茨城県の出身ですが、お母さんの実家が会津にあるそうです。お母さんの実家を訪れるたびに、「いずれ会津に住んでみたいな」と漠然と考えていました。染谷さんは大学生になった頃、お父さんの仕事を手伝うために土木の勉強を始めました。それをきっかけに、自分には上司の命令の下、同僚と競い合うような生活はできないと感じ、50 年後どのような生活を送りたいかを考えるようになりました。次第に農業をやりたいと思い始め、会津の土地を思い出しました。「農業をするなら会津だ」と思い、お父さんを説得します。しかし…染谷さんは会津に知り合いもなく、住むところもない、農業を教えてくれる人もいないということに気づき始め、改めて難しい道を選んだと思い始めます。そんな時に、新聞で地域おこし協力隊の募集の記事を見つけます。給料を得ながら住む場所もあり、農業を学べるということは、まさに理想的でした。そして、湯川村は新規就農への道を確実にサポートしてくれているという点が、染谷さんが求めている条件と合致しました。

一方で、地域おこし協力隊の任期が 3 年のため任期が終わった後、自分は何をしているのかという将来が見えない不安もあります。しかし、「今行っていることはすべて自分の人生にとってかけがえのない経験になる」と考えているそうです。



▲ 染谷さんのお話を聴いている様子

現在の活動について

大学で微生物について学んでいた経験を活かして、微生物を利用した農業を行っているそうです。農作業の指導者の支援を受けながら、一人前の農業者になるために頑張っておられます。また、私たちの堂畑マルシェにも全面的に協力していただくなど、地域活動にも積極的に参加されています。

(3年 水上里菜)

< 屋台村見学 >

私たちが道の駅あいづ湯川・会津坂下を見学した日(9月2日(土))は、道のひろばで夜の屋台村が行われていました。今回は2度目の屋台村だそうで、午後5時～午後9時の間、多くのお客さんが来て賑わっていました。

「道の駅でちょっと一杯どうですか?」ということで、ちょうちんの明かりの下、たくさんの屋台が立ち並んでいます。一般的な屋台と異なるのは、売られている料理です。夜の屋台村では、地元産品を使用したものが数多く売られています。



牛筋大根の煮込み、会津地鶏を使ったナゲットやソーセージなど、ちょっと一杯飲みたいという人にはぴったり。メニューが豊富でとても賑やかでした。

▲屋台村にて

< 堂畑マルシェ参加農家の方々へのインタビュー >

▼田畑見学

9月3日には、マルシェにご協力いただいている農家の方へインタビューをさせていただきました。

①公民館に来てくださった方々への聞き取り

②実際にご自宅に出向きお話を聞く

2種類の方法で調査を行いました!

農家の方々のご厚意で、新鮮な野菜をご馳走になったグループや田畑を見学することが出来たグループもありました。



農業をする上で日々感じる苦勞や、やりがいなど、大学では直接聞くことが出来ない、貴重な経験談を熱心に聞く大学生。

農業の話だけではなく、堂畑地区の自慢できる点、そして課題なども話し合いました。

(3年 渡部愛紀乃・奥山直)



< 湯川村村民運動会 >

「福島大学」チームとして参加しました！

綱引きやむかでリレー、徒競走など学生全員が全力で楽しみました！学生同士だけではなく、村長をはじめとした地元の参加者の方々とも交流することができて、充実感溢れる時間となりました。

むかで競争



女子、1位で
ゴール！

綱引き



湯川村のお父さん
お母さんのパワー
恐るべし！

800mリレー



参加者全員
足が速い！

宅配便リレー

(宅配物を持ちながら走るリレー)



一生懸命走る
子供たちが
可愛い！

ラストチャンス(玉入れ)



思いのほか
玉が入っていて
びっくり！



▲新米祭の様子

新米祭

2017. 10. 8

新米祭に堂畑マルシェを出店！

10月8日に“道の駅あいづ 湯川・会津坂下”隣の河川敷で行われた第12回新米祭。

堂畑地区も福島大生と一緒に堂畑マルシェを出店しました。

《堂畑産の野菜を販売》

前日からゼミ生の数名が湯川村に向かい、民泊施設に宿泊しながら袋詰めなどの準備を行いました。

堂畑で農業をしている農家さんたちにご協力をいただいたおかげで、たくさんの農作物が店頭に並びました。ネギや白菜、ジャガイモなどの定番の野菜をはじめ、紫キャベツやサツマイモ、中にはあずきなどをご協力くださった方も。テントに入りきれないほどの野菜が集まりました。

新鮮な野菜をたくさん提供してくださったおかげか、マルシェのスタート時からたくさんのお客さんが！

マルシェでは福大生の他、堂畑の子どもたちも販売を手伝ってくれたおかげで活気のあるブースに。

また、お買い上げいただいたお客さんには、堂畑地区×福島大学のロゴや湯川まいちゃんの缶バッジをプレゼント。子供たちにも大人気でした。



▲起き上がり小法師の絵付け体験の様子

《○×クイズや絵付け体験も》

新米祭では合併60周年記念の○×クイズや、移住者相談ブースの横で起き上がり小法師の絵付け体験なども行われ、お年寄りだけ

でなく多くの子どもたちも楽しんでいる様子うかがえました。

《大盛況で終了》

10:00～14:00で行われた新米祭。野菜は重くて荷物になるため、終了時間間際に買いこいっしやる方も多く、最初に大量にあった野菜も最後にはわずかに。

次の福大祭出店へ向けての改善点も見つかри、良いマルシェになりました。



▲たくさんの方に来ていただけました！

(3年 江坂彩生)



▲自慢の野菜を売るお母さんたち

堂畑マルシェ in 福大祭

2017.10.28

堂畑マルシェが福島大学にやってきた！

10月28日の第53回福大祭にて堂畑サロンを出店しました。春から少しずつ準備を進め、域学連携業初の試みを実現することができました。

堂畑の農家のみなさんに再びお願いして、ネギや大根、ジャガイモ、ニンジン、白菜などなど、数えきれないほどのお野菜を提供していただきました。

前日は各農家さんのラベル貼りやポップづくり、仕分け作業など学生総動員で、夜中まで準備が行われました。

福大祭当日、マルシェの準備をしていると来場されたお客さんから「販売はまだなの？」という催促が。開店と同時に多くのお客さんが新鮮なお野菜を求めてやってきました。特に売れ行きが良かったものは小豆、赤玉ねぎ、里芋、ブロッコリー、紅くる

り(赤大根)だったようです。また、500円以上のお買い上げで湯川米ミニパックをプレゼントしたところ、反響を呼び、お米を目当てにたくさん買っていくお客さんも多かったです。

▼堂畑で採れたお野菜



またお昼頃からはお野菜を提供してくださった堂畑のみなさんが福大に駆け付け、堂畑マルシェはさらに活気で溢れました。さすがは人生の大先輩、若者に負けないパワーでどんどんお野菜を売っていく姿に、私

たち岩崎ゼミ生は圧倒されてしまいました。若い大学生に囲まれて堂畑のみなさんが若返ったのでしょうか(笑)

堂畑マルシェでは、岩崎ゼミと交流のある玉川村おこし協力隊員の荻野さんにもお越しいたいで、玉川村産のさるなしやさるなしジュース、トマトジュースの販売も合わせて行い、小規模町村の魅力を広く発信した一日となりました。



▲玉川村で採れたさるなし

(3年 平間和哉)

【堂畑の野菜を購入した方からの感想】

大根を買ったが、新鮮でみずみずしく、切ったときからジューシーで、スーパーで買う野菜とは全然違っていました。

採れたての野菜が並んでいると伺いましたが、とても新鮮で葉物野菜などがシャキッとしていました。

美味しくてびっくりしたのが湯川米です！炊き立てはすごく良い香りがして、冷めても美味しく、堂畑の方がおっしゃっていたとおり、お塩だけでも十分に美味しいお米でした！

立派なお野菜なのに安くてうれしい！！

とても大きくていろいろな料理にお得に使えて良かったです。

スーパーではあまり見かけない大きさの野菜がありました。それでいて味もとてもよかったです。

農家の方々のおすすめの食べ方を真似してみれば野菜のおいしさがより引き立つと思いました。

実家暮らしなので家族にも食べてもらいましたが、みんな美味しいと喜んで食べていました！

【次回の反省点】

- ・堂畑のおかあさんたちがしてくれたように、野菜をもっと前に出したレイアウトを心掛ける。
- ・テント後ろのスペースを空けて、ちょっと休めるような場所を作る。
- ・おかあさんたちのパワーを見習い、学生たちも積極的に声を出す。

(3年 平間和哉)

SNS による情報発信



Twitter 「堂畑区盛り上げ隊！」

今年度は昨年の提案の3つ目にあたる「SNSの情発信」をTwitterにて行いました！

アカウント名は「堂畑区盛り上げ隊！」です！Twitterをフォローしていただくことで堂畑地区の方々、そして堂畑を離れて住んでいるの方々にも堂畑地区の活動を知っていただければと思います！

堂畑区活性化のため、堂畑地区のみなさんが福大生と一緒にどんな活動をしているのか、随時アップしていきますので多くの方々にフォローしていただければと思います！よろしくお願いします！



アカウント情報

「堂畑区盛り上げ隊！」

@IY_fukushima

Twitter・QRコード

どうぞフォローお願いします！♪



▲2017.7.29 投稿 「堂畑マルシェ」

2017 年度の活動を振り返って

2016 年度から引き続き、我々福島大学岩崎ゼミの学生は、湯川村堂畑地区にて活動をさせていただきました。昨年度はアンケート調査や戸別の聞き取り調査を中心に活動し、さらに地区の行事等に参加させていただきました。地域の方々から堂畑地区の活性化について意見を伺い、また、道の駅あいづ湯川・会津坂下では、県内外の方々がどのような理由で道の駅を利用しているのか等の利用者アンケートを行い、それに加え、新米祭では堂畑マルシェも開催しました。

その活動をもとに、今年度も堂畑マルシェを開催し、地域の魅力を再発見するとともに、福島大学祭でもマルシェを行うことで、堂畑地区の農産物の PR 活動のお手伝いをさせていただきました。また、道の駅で行った「こどもマルシェ」では、堂畑地区の子供たちと共に集荷や販売を行ったことで、地区の子供たちも堂畑地区の農産物について知る機会にもなったのではないのでしょうか。

今年度は、堂畑マルシェに加えて、堂畑活性化サロンも行ってきました。このサロンでは、地域の方々と学生との交流のみならず、地域の様々な世代の方の交流の場を作ることも目的のひとつでした。今年度はニコニコ学級や子供たちとの夏休み勉強会、夏祭りや湯川村運動会、新米祭りに参加させていただきました。堂畑活性化サロンでは地域の幅広い世代の方と関わることができ、充実したものとなりました。

さらに、今年度から堂畑マルシェやサロンの様子を Twitter(@IY_fukushima)で発信し、堂畑地区で何が行われているのかをお伝えしてきました。今後さらに多くの人目に触れるようなものにし、今よりも有意義な発信に取り組んでいきたいと考えております。

今年度の堂畑マルシェや活性化サロンは地域の幅広い世代が交流し、堂畑地区の魅力を再発見できる場所になったのではないかと考えております。今後も今年度の活動を継続して行い、活動のさらなる充実、認知を図っていきたいと思います。しかしながら、今年度は我々大学生が主体的に提案するというよりも、湯川村役場や地区の方々に提案して頂いた企画に参加するという形が主でした。来年度は大学生の目線から考えた堂畑マルシェや活性化サロンを提案し、実行していくことで学生がより主体的に関われるような活動を目指していきたいと考えております。

(3年 草川辰徳)

今後の提案

堂畑サロン、マルシェの継続

まずは今年(2017年)から始まった堂畑活性化サロンや堂畑マルシェをこれからも続けていくべきだと考えます。理由は、双方とも堂畑地区の方々と顔を合わせて触れ合うことができる貴重な機会であるとともに、長期的に関わっていくことで私たちもさらに堂畑のことを深く学び、考えることができるためです。また、これらの企画を今後も継続していくことで堂畑地区に様々な交流をもたらすことができます。これは村の活性化につながるとともに、学生の私たちにとっても、堂畑の方々にとっても、新たな刺激となると考えられます。

受動的にではなく能動的に

今年度は、従来のように堂畑地区が開催する行事にも参加しつつ、私達大学生の目線で企画した新たなサロンや行事を考案・実行していければと思います。学生の発想や提案が堂畑地区の皆さんのインスピレーションを刺激し、さらなる活性化が望めるのではないかと考えます。

子どもたちに焦点を当てた企画

少子高齢社会の今、これから堂畑を担っていくような若い人たちとの交流は必要不可欠なのではないかと思われれます。今期の岩崎ゼミにおいて参加させていただいた「こどもマルシェ」では、堂畑地区に住む子どもたちと触れ合いました。私達学生と堂畑地区の方々が協力して子どもたちが堂畑をもっと好きになるような企画を考え、楽しんでもらうことで、子どもたちとともに今後の堂畑について考えていくことができるのではないかと思います。子どもたち自身が今後自身の暮らしていく堂畑について考えて出した意見は、大人にとっても良い材料になるのではないかと考えます。

(3年 橋本裕貴)

岩崎ゼミの紹介

テーマ：農山村地域問題を考える

私たち福島大学行政政策学類、岩崎ゼミの学生一同、岩崎先生の指導の下で、「過疎・農山村地域問題を考える」というテーマで活動を行っています。

具体的には、過疎・農山村地域にかかわる文献講読やフィールドワークを行い、地域再生に向けた理論と視点、方法などを考察しています。

フィールドワークでは、実際の地域づくりの現場に参画し、地域住民の皆さんと共に“生”の課題に向き合っていきます。そして検討を重ね、地域再生のための活動を計画・実行しています。



岩崎ゼミメンバー

3年生：14名

4年生：21名

総勢35名で活動！

【パンフレット制作】

岩崎ゼミ3年

阿部友祐	石川優作
江坂彩生	大竹一樹
奥山 直	加藤鞠奈
草川辰徳	小池寛斗
近藤結美	佐藤 蓮
水上里菜	橋本裕貴
平間和哉	渡部愛紀乃

指導教員

岩崎由美子
(福島大学行政政策学類教授)



【ロゴマークについて】

堂畑マルシェで使われているこのロゴマーク。上のオレンジの丸が太陽、下の稲と3色の楕円は堂畑の野菜を意味しています。また、太陽の部分の花、下の野菜を表す3色と稲が葉を表し、全体の構図として一つの花のような形をとって、堂畑の自然の豊かさを表現しています。

(デザイン:3年 橋本裕貴)

(3年 江坂彩生)

～堂畑地区 地域資源マップ～



元気いっぱいの
堂畑の子供達！ ↓



堂畑民泊施設

元々空き家だったものを改修したもので、現在では地域おこし協力隊の染谷さんが住んでらっしゃいます！



↑堂畑農家さん達の
豊かな畑

お地藏さん

集落を見守っている！？
ありがたや～。



堂畑集会所

地区に欠かせない場所。
懐かしい雰囲気で居心地◎
中には堂畑の写真が飾ってある

放送局

交通安全や火災予防の
呼びかけで使われたり...。
まさに地区の司令塔！

2つの掲示板

1つは農業に関すること
もう1つは集落に関する
ことが掲示されています

御月宮

田んぼの真ん中にある社



↑堂畑産の美味しい野菜

養泉寺

集落の人が
集まる場所。
歴史を感じます...

堂畑農村公園

堂畑キッズ達が
元気いっぱい遊ぶ公園。

